

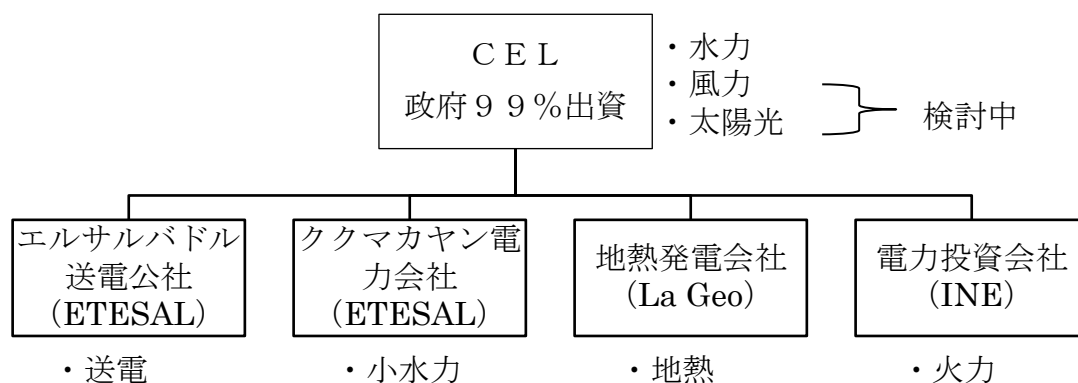
エルサルバドル発電事情

2017年9月26日

在エルサルバドル大使館経済班

1 当国電力組織図

・レンパ川水力発電管理委員会（CEL）が各種発電事業を管轄し、CELの傘下として、4つの公企業が存在する。4公企業を併せて「CELグループ」と呼ぶ



2 日本企業によるビジネス機会

- ・日本企業が投資を行う分野として考えられるのは、地熱発電及び水力発電（外資49%まで）、太陽光発電及び風力発電（外資100%可能）の分野
- ・ビジネス機会としては、後述の投資、設備供給及びファイナンスの分野

●地熱発電

- ・既に調査済みの地熱井がチネメカ（Chinameca）とサンビセンテ（San Vicente）に存在
- ・確認されている設備容量は、チナメカが24メガワット、サンビセンテが12メガワット
- ・政府見解では、将来、それぞれ50メガワット及び30メガワットとなる
- ・投資総額は約5億6,000万ドル（チナメカ：3億3,000万ドル、サンビセンテ：2億3,000万ドル）
- ・資金調達先は未定
- ・La Geoの民営化の可能性無し
- ・日本企業参入可能性は、政府との合併での事業運営、あるいは設備供給

●水力発電

- ・「シマロン (Cimarron)」における１００メガワットの発電
- ・「リオ・パス (Rio Paz)」におけるグアテマラとの共同事業で９０－１５０メガワットの発電（リオ・パスはグアテマラとエルサルバドルをまたぐ川）
- ・投資総額は５億ドル
- ・地熱発電と同様，政府との合弁事業
- ・資金調達先は未定

●太陽光発電・風力発電

- ・現時点でエルサルバドル政府が有する事業はないため，１００％日本企業の出資で事業可能

３ 当国電力発電状況

- ・現時点での当国発電総量は１，４００メガワット
- ・９００メガワットがＣＥＬグループによるもの
- ・残り５００メガワットについては，米国企業等による火力発電やフランス企業による太陽光発電（２３０メガワット）